

核燃料サイクル施設立地反対津軽地区連絡会議
(通称)核燃・だまっちゃおられん津軽の会

第8回 市民講座

1986年4月26日、チェルノブイリ原発の4号炉で、大きな爆発事故が起こりました。この原発事故により、原子炉内にあった大量の放射能が大気中へ放出されました。そのとき問題とされたのがヨウ素131による被曝です。ヨウ素131は半減期(最初にあった放射能の量が半分になるまでの時間)が8日と比較的短いのですが、甲状腺(こうじょうせん)が特異的に被曝を受けるため、子どもたちの間にガンや機能障害などの深刻な影響をもたらしました。

1999年9月30日、JCOの核燃料加工施設内で核燃料サイクル開発機構の高速増殖実験炉「常陽」向けの燃料加工の工程中に、ウラン溶液が臨界状態に達し核分裂連鎖反応が発生し、至近距離で致死量の中性子線を浴びた作業員3人中、2人が死亡したときにも、周辺住民の健康被害が心配されました。住民が長い列を作って、放射能検出器を当てられていた姿は、いまま生々しく記憶に残っています。



被曝が子どもに与える影響は甚大です。流産や奇形につながることもあります。再処理工場をはじめ、ウラン濃縮工場や原発など、原子力施設が集められている青森県は、実際に影響が出ているという話も聞きます。

長年、県内の保健所長として、青森県の小児がん調査事業に、実際に深く関わってきた医師が、若い命を守るための努力や事業の問題点などをお話します。

みなさん、どうぞご参加ください。



テーマ「若い命を放射能から守る」

～青森県小児がん等がん調査事業について～

講師 元鰐ヶ沢・五所川原・むつ・八戸保健所長

とき：6月18日(木) 午後6時～8時

ところ：津軽保健生協本部2階ホール

参加費無料

◇どなたでもお気軽にご参加ください

主催：核燃料サイクル施設立地反対津軽地区連絡会議

(通称)核燃・だまっちゃおられん津軽の会

連絡先：竹浪純 080-5229-6076

